東日本大震災
14周年記念の祈り

午後2時46分の黙想
同じ時 想いを一つに 皆で祈りを

－すべての逝去者、困難のうちにある方々を覚えて－

2025年3月11日（火）午後2時15分

※　礼拝の開始時間（午後2時15分）は目安です。礼拝が始まってから福音書朗読が終わるまでは約10分程度です。説教または勧話を15分程度としますと、午後2時46分まで約5分程度の黙想時間となります。
それぞれの状況に応じて、時間を調整し、この式文の全体、あるいは一部を用いて、祈りの時を共にしていただければ幸いです。

東日本大震災14周年記念の祈り

この祈りは午後2時15分から用いてもよい。

司式者は沈黙のうちに入堂する。

と も に 集 う

一同立つ。

司式者　父なる神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、皆さんとともに

会衆　**また、あなたとともに**

悔い改めの祈り

司式者　神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛してくださいました。この神の愛に応えるため、自らを省み、ともに罪の赦しを祈りましょう

ここで一同ひざまずく。しばらく自らを省みた後、一同で唱える。

一同　**憐れみ深い神よ、わたしたちは、してはならないことをし、しなければならないことをせず、思いと、言葉と、行いによって、あなたと隣り人に対して多くの罪を犯しています。どうか罪深いわたしたちをお赦しください。新しい命に歩み、み心に従い、み栄えを現すことができますように、救い主イエス・キリストによってお願いいたします　アーメン**

聖歌　第４２５番

特　祷

司式者　主は皆さんとともに

会衆　**また、あなたとともに**

司式者　祈りましょう

天地の創り主である主よ、今わたしたちは東日本大震災の発生から満14年の日を迎え、共に祈るためにここに集いました。東日本大震災の地震と津波によって、そして東京電力福島第一原子力発電所事故によって大きな苦難を受けた人々のために祈ります。またその日から今日に至るまで、新型コロナ・ウイルス感染症をはじめ、幾多の災害が日本国内において、また世界の各地で起こりました。その中で犠牲となった人々、また今なお困難な生活が続いている人々のことも思い、祈ります。どうぞあなたの慰めと励ましのみ力がそれら多くの人々の上にありますように。多くの災害とともに、いまだに小さくされた人たちの苦しみが続くウクライナ戦争をはじめとする争い、憎しみの絶えることのないこの世界にあって、わたしたちがあなたの創造の美しさを回復させるため、小さな器として用いられますよう、力と導きをお与えください。苦しみ、悩む人々と共に歩まれる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

と も に 聞 く

司式者　聖書のみ言葉を聞きましょう

会衆は着席する。

第1朗読

朗読者　第1の朗読は、ダニエル書 第12章1節から（ダニエル12:1-3）

1その時、大天使長ミカエルが立つ。
あなたの民の子らの傍らに立つものとして。
国が始まって以来、その時までなかった苦難の時が来る。

しかし、その時にはあなたの民
かの書物に記録が見いだされたすべての者は救われる。
2地の塵となって眠る人々の中から多くの者が目覚める。
ある者は永遠の命へと
またある者は永遠のとがめへと。
3悟りある者たちは大空の光のように輝き
多くの人々を義に導いた者たちは星のようにとこしえに光り輝く。

朗読者　第1の朗読を終わります

詩　　編　第46編

1　神は我らの逃れ場、我らの力‖　苦難の時の傍らの助け
2　それゆえ私たちは恐れない‖　地が揺らぎ、山々が崩れ落ち、海の中に移るとも
3　その水が騒ぎ、沸き返り‖　その高ぶる様に山々が震えるとも
4　川とその流れは、神の都に‖　いと高き方の聖なる住まいに喜びを与える
5　神はその中におられ、都が揺らぐことはない‖　夜明けとともに、神は助けをお与えになる
6　すべての民は騒ぎ、もろもろの王国は揺らぐ‖　神が声を出されると、地は溶け去る
7　万軍の主は私たちと共に‖　ヤコブの神は我らの砦
8　来て、主の業を仰ぎ見よ‖　主は驚くべきことをこの地に行われる
9　地の果てまで、戦いをやめさせ‖　弓を砕き、槍を折り、戦車を焼き払われる
10　「静まれ、私こそが神であると知れ‖　国々に崇められ、全地において崇められる。」
11　万軍の主は私たちと共に‖　ヤコブの神は我らの砦

福音書

朗読者　マルコによる福音書 第13章14節から（マルコ　13:14-20）

14「荒廃をもたらす憎むべきものが、立ってはならない所に立つのを見
たら一読者は悟れ一、その時、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。15屋上
にいる者は下に降りてはならない。家にあるものを取り出そうとして中に入
ってはならない。16畑にいる者は、上着を取りに戻ってはならない。17それ
らの日には、身重の女と乳飲み子を持つ女に災いがある。18このことが
冬に起こらないように、祈りなさい。19それらの日には、神が天地を造られ
た創造の初めから今までなく、今後も決してないほどの苦難が来るからであ
る。20主がその期間を縮めてくださらなければ、誰一人救われない。しかし、
主はご自分のものとして選ばれた人たちのために、その期間を縮めてくださ
ったのである。

朗読者　マルコによる福音書を終わります

＊勧話または説教

勧話または説教をする。

＊沈　　黙

午後2時46分まで沈黙のうちに待つ。

＊打　　鐘

午後2時46分に鐘を鳴らす。

一同、鐘とともに立ち、1分間、黙祷の時を持つ。

黙祷後、次の唱和を用いる。

司式者　東日本大震災によるすべての犠牲者を覚えます
主よ　永遠の平安をこの人々に与え

会衆　絶えざるみ光をもって照らしてください

使徒信経

一同立ち、歌いまたは唱える。

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。
また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。主は聖霊によって宿り、おとめマリヤから生まれ、ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。
また、聖霊を信じます。聖なる公会、聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます　アーメン

平和の挨拶

司式者　キリストはわたしたちの平和です

会衆　わたしたちは主のみ名によって出会い、主の平和を分かち合います

司式者　平和の挨拶を交わしましょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

献げもの

ここで次の言葉を用いてもよい。あるいは他のふさわしい言葉か聖句を用いてもよい。

司式者　主の救いのみ業に感謝し、ともに賛美を献げましょう

信施はここで集める。その間に聖歌を用いてもよい。

信施を献げるときは、以下の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

司式者　すべてのものは主の賜物

一同　**わたしたちは主から受けて主に献げたのです　アーメン**

ともに祈る

司式者は次のように言う。会衆の代表者が言ってもよい。

司式者　救い主イエス・キリストのみ言葉とみ業に頼り、全公会のため、また世界のために、ことに東日本大震災を覚えて祈りましょう

司式者　慈しみ深い神、慰めの主よ、今、わたしたちは14年を経た東日本大震災を覚えて祈ります。どうか、被災地にある人、避難生活を強いられている人、特に日本社会の中で生きることの困難に苦しむ人、将来の希望を見い出せない人を支えてください

会衆　**主よ、お聞きください**

司式者　原子力発電所事故により、失われた自然と人々の生活を覚えます。故郷を離れて生活する人、危険な作業に従事する人とその家族をお守りください。そして政治と社会に責任を持つ人々に正しい道を歩ませてください

会衆　**主よ、お聞きください**

司式者　わたしたちもまた、これらの苦難をつねに覚えることができますように。日本聖公会の被災者支援の働きを強めてください。そしてわたしたちも思いと力を合わせて、共に歩み続けることができるように導いてください

会衆　**主よ、お聞きください**

司式者　いのちの源である主よ、東日本大震災のすべての犠牲者、そし

て世界各地の災害と争いの中で生命を失った人々を、あなたのみ腕の中に抱き、永遠の安らぎを与えてくださいますように

会衆　主よ、これらの祈りを主イエス・キリストのみ名によってお願いいたします。アーメン

主の祈り

一同ひざまずく。

司式者　主よ、憐れみをお与えください

会衆　キリストよ、憐れみをお与えください

司式者　主よ、憐れみをお与えください

次に一同、主の祈りを歌いまたは唱える。

天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。
み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、
悪からお救いください。
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです　アーメン

感　謝

司式者　ともに祈りましょう

すべてのものの源である神よ、あなたは遠く離れていたわたしたちを、み子との出会いをとおして主の家に招いてくださいました。このあなたの愛に感謝し、み名をほめたたえます。あなたからいただいたみ言葉と恵みと平和を、わたしたちがすべての人びとと分ち合うことができますように。そして

聖霊の導きにより、あなたの光でこの世界を照らす働きに与らせてください。またあなたがわたしたちに与えてくださった希望を変わることなく保たせ、すべてのものがみ名をほめたたえることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします　アーメン

主とともに行く

終わりに司式者は次のように言う。

司式者　限りない愛と恵みの神が、世にある人と世を去った人との全公会を、み子イエス・キリストによる復活とみ国の喜びに導いてくださいますように

会衆　**アーメン**

派遣の唱和

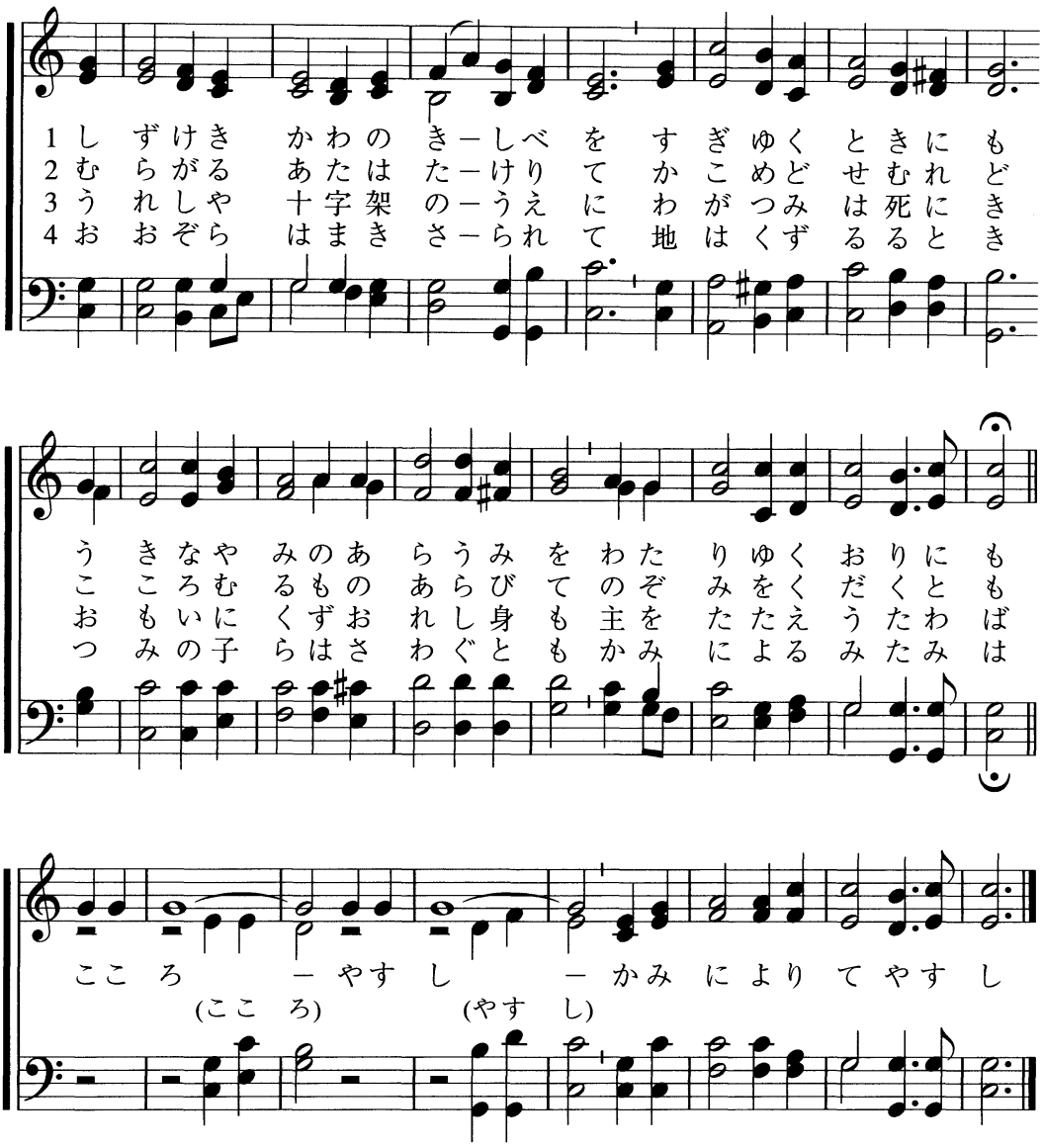
一同立って、次の唱和を用いる。

司式者　神と人とに仕えるために行きましょう

会衆　**主のみ名によって　アーメン**

ここで聖歌を用いてもよい。

聖歌　第４６５番



When peace like a river attendeth my way
Horatio Gates Spafford (1828-1888)

PEACE
Philip Paul Bliss (1838-1876)

この式文は、日本聖公会祈祷書別冊諸式『み言葉の礼拝』、『日本聖公会聖歌集』（2006年）、『聖書　日本聖書協会共同訳』（2018年）から抜粋したもので、日本聖公会東北教区主教 主教 フランシス長谷川清純が、救主降生2025年3月11日の東日本大震災14周年記念の祈りでの使用を許可したものである。